

# 「年寄りいじめやめて」

## 生存権裁判支援する会 宣伝



署名宣伝行動をする（左から）生存権裁判を支援する全国連絡会の前田美津恵事務局長と瀬戸井定雄さん。25日、東京・JR浜松町駅前

「年寄りをいじめないでください」。生活保護の老齢加算の復活を求める「生存権裁判を支援する全国連絡会」は25日、東京・JR浜松町駅前で署名宣伝行動をして、生活保護改悪法案の廃案、保護基準の引き下げ反対を訴えました。

前田美津恵事務局長がマイクを握り、「改悪法案は生活保護を受ける『ハードル』をあげるもの」と批判しました。前日、国会で趣

旨説明された法案は、申請者に収入や資産などを記入させるなど多岐にわたる書類の提出を義務づけ、扶養が困難な親族にその理由を報告させるなど、申請をためらわせる内容となっていました。

86歳の瀬戸井定雄さんは「あなたの一筆が国を動かします」と署名を呼びかけました。

鹿児島県から上京した宮地利雄さん（63）は署名に応じて、「アベノミクスは株を大量

にもっている一部の者だけに恩恵を与えていく。田舎では関係ない。現実には低所得で苦しむ国民は多く、生存権を守る運動は大切だと思おう」と話していました。